

日本洋装界の歴史は日本洋装協会の歴史

NDA公式  
You Tube

発行所 一般社団法人 日本洋装協会

一般社団法人 日本洋装協会

事務局 〒113-0034

東京都文京区湯島4-8-307

TEL (03)3814-7023

FAX (03)3814-7023

発行人 伊賀 玲子

編集人 高橋 里子

黒澤 旬子

※NDAモード通信は年3回発行



輝け

日本洋装協会

(一社) 日本洋装協会

会長 伊賀 玲子

一般社団法人日本洋装協会の活動に、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当協会は、一九四七年「NDA日本洋装協会」として発足し、まもなく創立八十周年を迎えようとしております。これもひとえに、長年にわたり洋裁を愛し、技術を磨き、次世代へと継承してくださった会員の皆様のお力添えの賜物と、心より感謝申し上げます。

近年、社会の価値観や生活様式は多様化し、特にここ十年間の日本における情報形態は大きく変化しました。スマートフォンとSNSの普及により、情報との出会い方、そして人の流れそのものが大きく変わってきています。そうした中にあっても、洋裁は「自らの手で創り出す喜び」「技術の大切さ」を伝える文化であり、これからの時代にこそ求められるものと確信しております。

当協会は、会員拡大を目標とし、輪を広げ、洋裁に携わる方々の交流と研鑽の場をさらに充実させるとともに、洋裁技術を未来へ受け継ぐための人材育成と活動を強化し、より多くの人々に洋裁の魅力を伝えてまいります。具体的には、技能豊かな先生方による講習会や研究会、フォローアップセミナーやステップアップセミナーの開催、モード通信やインスタグラムを活用し

た広報活動、さらには遠方への情報発信としてLINEやZoomを用いた取り組みも行っております。

来年四月十八日(土)には、第七回NDAクチュールコレクションを開催いたします。会員と認定校生との技能の融合の場として、三年ごとに開催している当協会独自のファッションショーです。華やかで楽しいショーとなりますよう、どうぞ皆様のお力添えをお願い申し上げます。さらに来年秋十一月には「2026全日本洋装技能コンクール」が開催されます。創造力と楽しさを詰め込んだ作品を心よりお待ちしております。

また、ご意見・ご要望、さらには地方からの情報なども幅広くお寄せいただければ幸いです。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 新年祝賀会のお知らせ

令和8年1月16日(金)

場所 ホテルグランドヒル市ヶ谷(瑞穂西の間)

皆様奮ってご参加ください。

## 新入会員

山本 絢子(神奈川県)



## NDAニュース

http://nidayouson.jp/

令和7年度 全技連マイスター認定者

鈴木 和枝(茨城県)  
高橋 里子(埼玉県)  
峰 早百合(長崎県)  
高倉美代子(宮城県)  
高橋 菜実(宮城県)  
鈴木 好夫(茨城県)  
小田島久美(千葉県)  
植田 峯子(千葉県)  
松本 佳子(東京都)  
佐々木悦子(茨城県)  
小柴真由美(神奈川県)  
池田 幸代(神奈川県)  
植元 マキ(広島県)  
三根 智依(佐賀県)  
中野 美保(福岡県)  
佐藤 睦子(千葉県)  
宮崎みどり(神奈川県)  
西 泰代(神奈川県)  
落合 祥子(東京都)  
斎藤 真紀(神奈川県)  
山口 洋子(大阪府)  
武藤 祥子(佐賀県)  
漆畑 睦美(長崎県)  
末永志穂子(長崎県)

## 二級合格者

令和7年9月9日(火)  
2026全日本洋装技能コンクール合同委員会  
令和7年9月19日(金)  
ワンポイントセミナー開催  
ファッションイラストデザイン画の書き方  
講師 岡本あづさ先生  
令和7年10月4日(土)  
秋のセミナー(教育部)  
パンツ原型からデザイン  
パターン設計及び体型補正  
講師 矢野 弘子先生  
令和7年10月17日(金)20日(月)  
東京洋装会館 ジェントリホール  
愛知県国際展示場  
第63回技能五輪全国大会  
令和7年11月16日(日)、11月30日(日)  
ジャネットパターン講習会  
城東職業能力開発センター(綾瀬校)  
令和8年1月16日(金)  
新年祝賀会  
ホテルグランドヒル市ヶ谷(瑞穂西の間)  
令和8年1月  
既製服パターン検定  
令和8年2月27日(金)3月2日(月)  
技能グランプリ大会2026  
インテックス大阪  
令和8年4月18日(土)  
第7回NDAクチュールコレクション  
ホテルグランドヒル市ヶ谷(瑞穂西の間)

## ミシン糸を

深掘りしてみよう

アズマ株式会社 A/C推進室 室長 鶴木 隆嘉

洋服づくりに欠かせないミシン糸は、単なる消耗品ではなく、縫製品質を左右する重要な要素です。糸はミシンの経路を通過する際や生地を貫通する際に摩擦や引張りの力を受け、その張力や毛羽立ちの状態によって縫い目の安定性が大きく変わります。フィラメント糸は光沢と強度に優れ、スパン糸は綿に近い風合いを持ち、それぞれ用途に応じて選ばれます。また、同じ「60番手」であっても基準が異なる場合があります。そのため、針やテンションの調整が欠かせません。糸の特性を理解することは、パッカリングや縫いシワなどのトラブル対策にも直結します。

講習会では、これらに加えて、熱で溶けて接着できる糸やステンレス糸、接着用糸、静電防止糸などの特殊糸についても紹介しました。糸は単に表に見えるだけの存在ではなく、機能性や縫いやすさを支える「裏方の主役」です。今後も縫製現場の工夫とともに、より良いものづくりに役立てていただければ幸いです。



## ポリウム袖ブラウス

1日セミナー

廣谷さくゑ (千葉県)

6月14日、アズマ株式会社 3階TSUKUROUに於いてワークショップに参加しました。体験希望者3名は京都麻織布より好みの色を選び、タックギャザーのパフスリーブ、ギャザースリーブ、フレアスリーブの3型の中から選択しました。その後、型紙調整・裁断・工業用ミシンの操作・バキュームアイロンの使い方を学び、1日で涼しげで素敵なブラウスを仕上げることができました。

学んだポイント

①後ろ明きの行って来い始末

②ギャザー袖の寄せ方

③三巻器具の使い方

④今風の肩回り袖ぐり始末によるシルエットの再認識の4点でした。参加者の山田さんもOnly oneデザインを好み、昨年来流行のポリウム袖に躊躇していましたが、今回の体験を大変喜び、今後も流行を取り入れる参考になると話していました。各アトリエでも活かせる内容だったと思います。指導は佐藤、廣谷、リビで行いました。また、企画・場所・設備をご提供いただきましたアズマ株式会社様に心より感謝申し上げます。



## 大阪・関西万博を見学して

富澤三喜子 (東京都)

5月29日・30日・31日の2泊3日、3人(小幡、白井、富澤)で、大阪に行ってきました。

一番の目的はフランス館に展示されているクリスチャン・ディオールの作品を見ることでした。私たち3人はディオール作品を研究しており、そのクオリティを確かめるための訪問でした。作品は少々デザインが異なっていました。が、とても参考になりました。



日本館、アメリカ館、フランス館、イギリス館などは大変人気があり、入場するには1時間以上並ばなければなりません。160を超える国・地域、国際機関、さらに13の民間パビリオンが展示しており、大変賑わっていました。

何といっても一番の見どころは大屋根リングです。「多様でありながらひとつ」という万博の理念を表し、高さ12メートル、一周2キロの世界最大級の木造建築物です。

私たちも歩いてきましたが、上から見ると円の中心部は森になっており、散策ができました。夜には水辺でのアートラクションもあり、噴水ショーやドローンで描かれる幻想的な絵を楽しむことができました。



## DEATHファッション展

高橋 里子 (埼玉県)

東京・渋谷でファッション展が開催されました。本展は、美しい衣装の展示とともに「洋服に潜む危険性」と「服の構造の巧妙さ」をテーマに構成されていました。一般的な展覧会とは、異なる視線からの見せ方で非常に興味深い内容でした。例えば、19世紀半ばに流行した「パリ・グリーン」は、とても鮮やかな緑色をしていました。

しかし、その染料にはヒ素が含まれており、着用者が中毒症状を起こす危険な色だったのです。

会場の入り口には、19世紀末の女性用乗馬服も展示されていました。当時の正式な乗馬スタイルは横乗りで、落馬の危険性が高いことが問題視されていました。

さらに、乗馬時に足を隠すための極端に長いスカートは、そのままでは歩行が困難です。そこで、内部のリボンによって形を調整できる仕組みが施されており、その構造面も見どころの一つでした。展示は約30体に及び、18〜19世紀の婦人服や紳士服が並びました。この展覧会は11月末に、半・分解展大阪として開催予定です。皆様もぜひ、時代が生んだ「美」と「危険」を体感してみてください。





職人の小技②  
確りとした釦付け

千田 芳江

絹糸で付けた釦は取れやすいため白瀬顧問の実技による「確りとした釦付け」の研修を受けました。

釦付けでは、釦穴と糸との相性が大切です。絹糸の穴には麻のツレデ糸が最適です。アイロンで糸の縋りを整えメリケン短針4番で2本取り約40cmを用います。玉結びをし、釦位置から0.5cm離れたところに針を刺して始めます。

釦付けは、釦穴の形状に合わせて2回ずつ糸を通し、身頃の厚さ+0.2cm、約0.7cmの脚を作ります。根巻きは釦裏で縛ってからきつく巻き、途中で2回根巻きに刺して根元まで巻き、さらに2回刺し抜きして直立させます。次に裏に出した糸は、付け根で2回刺して0.5cm離れた所で糸を切り、玉結びも切り取ります。裏釦（座釦）の使用時も根巻き作りは同じで、裏に出した糸は身頃と裏釦の間に2回刺して、あとは同様に処理します。

化繊糸の穴（機械穴）には化繊糸で釦付け、綿布には厚さに応じて8番、30番の木綿糸、絹織物には布地の強弱に合わせてツレデ糸・絹糸・木綿糸が適しています。

ベ  
ストなど動きの多い服には、ユトリ量や釦穴の大きさと釦付け脚の長さへ配慮が必要です。

「フオーアアップ技術向上セミナー」  
（文化新原型を使った展開操作と展開方法）

佐藤 悦子（東京都）

令和7年5月11日、東京都台東区アズマ株式会社にて、文化学園大学非常勤講師の鹿島和枝先生をお迎えしてセミナーが開催されました。セミナーの前半は新原型の説明とダーツ移動の展開説明と実習です。文化原型の改訂は、今回で8回目となるそうです。参加者による実習は1・2の原型を使用して、紙を切り開く方法と原型を回転させる方法を行いました。後半は「体型の違いによる補正方法の例」を、プロジェクターを使用して解りやすく説明されました。

前半、後半共に参加者から盛んな質疑応答があり、とても有意義なセミナーとなりました。



## フオーアアップ

## セミナーに参加して

滝川 通子（茨城県）

令和7年6月29日、都立城東職業能力開発センター足立校にてフオーアアップセミナーが開催されました。

私が参加したコースは、縫製コース「毛芯仕立てのジャケット」です。『毛芯』という未知の世界に胸が躍りました。

地直し、裁断、くせ取りの工程も丁寧にご指導いただいた後、『毛芯』の登場です。糊の付いていない毛芯をどのようにして生地につけていくのか、新しい経験にワクワクしました。

表地に毛芯を置き、大きな万十の上でトントン叩きながら、繊維同士が絡み合うようになじませます。立体を意識して生地を持ち、ハ刺しをしていく。毛芯側から見るとハ刺しの縫い目もさる事ながら、表地側から見ると小さな縫い跡のなんともしない美しさ。まさにオーダーメイドの仕事、職人技、ピタリくる言葉が見つかりませんが、一つ上の技術を見た！と思える細やかな手技でした。ジャ

ケットの美しい立体ラインを意識する想像力と、一つ一つの工程を丁寧に行なう大切さ、そして洋裁の奥深さを改めて感じる事ができた貴重な時間でした。



## ワンポイントセミナー開催

## 岡本あづさ先生のデザイン画の描き方

広報部 高橋 里子

9月19日、理事会にてイラストレーターであり文化服装学院講師として活躍中の岡本あづさ先生をお招きし、ワンポイントセミナーを開催しました。

最初に人体のバランスについての基本的な考え方や、重心移動の捉え方、顔と手足との比率を整える方法など、具体的な例を交えながら丁寧に解説。

さらにギャザーやフレアーなどディテールの描き方、素材感を表現する工夫、色付けのテクニックに至るまで、多彩な内容を短時間に凝縮してご指導。

「失敗から新しい発見が生まれる」という先生の言葉は、一同の心に強く残り、制作の励みとなりました。実践ではまず顔から描き始め、基準となるバランスを意識しながら枠の中で全体を仕上げていく練習を行いました。同じ題材でも一人一人の描き方には個性があふれ、出来上がりの個性の違いがあり興味深い結果となりました。特に配色の付け方に関する先生のアドバイスには、新たな発見があり、今後の作品制作にすぐ役立つ内容でした。今回の講習会は、技術的な学びだけでなく、表現の楽しさや奥深さを改めて感じる貴重な機会となりました。

会となりまし



REPORT  
No.74

## ものづくり・匠の技の祭典 2025

池田 幸代（神奈川県）

日本のものづくりの伝統と、先端技術を広く紹介する祭典で、今年は記念すべき第十回目となります。

東京国際フォーラムの改修に伴い、会場を「東京都立産業貿易センター浜松町館」へ移し、令和7年7月25日（金）～27日（日）まで3日間に渡り開催されました。来場者は3日間で約3万6千人です。

オープニングでは副都知事のご挨拶の後、「匠」の文字をかたどった大型オブジェが披露されました。木工、畳、左官など各分野の職人が連携して制作したもので、近くで見るとその技術の緻密さがよくわかります。彩を添えるフラワーアレンジメントと共に、10周年に相応しい荘厳な演出でした。

初日にはサポーターの1人である、タレント・ゆうちやみ氏も登壇し、若年層へのアピールも図られていました。

今回の会場は、2階から5階までのフロア構成となり、2階に衣・食・伝統文化ステージ、3階に住・茶室、4階に工・職業訓練・若者企画、5階に伝統工芸・北陸

支援・全国ブ

スと分かれて展示され、各分野をじっくり見学しやすい構成だと感じました。



洋装協会としてはスマホケース作りやお人形さんの洋服製作体験を実施。体験を通じて感じたのは、針を持つ子どもたちの集中力の高さに気づくなど、実演の中で多くを学ぶ機会となりました。洋裁を伝える意義についても改めて考える機会となりました。

実演は1日目、高橋広報部長の「誰でも作れる簡単ベレー帽」、2日目、鈴木副理事長の「たたんで簡単ソーイング」、3日目、富澤マイスター会担当部長の「楽しいお袖の研究」です。間近で見ると、洋裁の秘訣に、みなさん感心していました。

そして、今年は「ミニチュアワンピースを作るう」という新しい企画があり、募集した方と2分の1ポディーで作る指導を伊賀会長が、担当補助に鈴木副理事長と高橋広報部長がお手伝い致しました。メインステージでは、洋装協会と他2団体の合同ファッションショーも開催され、私も裏方として初参加致しました。舞台の袖を知ることでの準備の重要さや連携の大切さを実感しました。

今後もこのような場を通じて、多くの分野の匠の方々からの刺激を受け、自身の技術を磨いていきたいと思いました。



## 地区だより

## 第8回 ソーイングルーム石田

生徒作品展・即売会を終えて

土師由布子（大分県）



青葉が目にしみる五月十七日から十九日まで、生徒作品展・即売会を開催いたしました。

作品展示は二十八名、来場者は三日間で九十二名にのびりました。テーマは「本物の服に出会う瞬間」。日頃から真摯に服作りに取り組んできた成果を披露する場となりました。

この日を心待ちにしていた来場者は、会員の友人・知人にとどまらず、広告を見て遠方から足を運ばれた方々もありました。会場では洋服の話題に限らず、さまざまな会話が飛び交い、温かく賑やかな交流のひとつとなりました。

出品された洋服は、丁寧な仕立てと上質な生地に加え、一点物ならではの魅力が光り、感嘆の声とともに次々と手に取られていきました。

また、会員有志による昼食やお菓子は、参加者の胃袋と心を満たし、互いの絆を深める大切な時間ともなりました。会の開催には準備や運営など大変な面もありますが、会員の士気を高め、今後の製作への励みにもつながっています。



## 支部だより

## 「千葉県日本洋装技能士会」

## 2025年度前期研修会」報告

塚原 奈月（千葉県）

5月11日、千葉県日本洋装技能士会の2025年度総会と前期研修会が開催されました。今回の研修会では3名の先生方から貴重な技術を学びました。千田芳江先生の「ひねりを入れた一枚袖」では、実際に一枚袖と二枚袖の作品を見比べて、ほとんど違いが判らない仕上がりに驚きました。作図の際に「ひねり」を入れる時のポイントを、パターンを用いて解説していただきました。小賀公恵先生の「あとから付けるスラッシュポケット」では、参加者全員がポケットを仕上げる実技を行いました。実際に手を動かすことで構造や工程をしっかりと理解することが出来ました。荒川浩美先生の「巻きロックの角縫い」では、ロックミシンの操作技術だけではなく、適切な糸選びの重要性も教えていただきました。サンプルを見ながらの解説がわかりやすく糸選びが仕上がりに大きく影響することを実感いたしました。どの技術も実践的で、大変有意義な時間となりました。

丁寧にご指導くださった講師の先生方に心より感謝申し上げます。

